

# 法政就業力通信

## ～今月のさんぽ道～

法政大学

産学連携 3D 教育プロジェクト  
<http://3dep.hosei.ac.jp/>産学連携 **3D** 教育プロジェクト

## 「自ら調べる・考える」

特任教員 白井 章詞 (しらい しょうじ)

### 【就業基礎力養成Ⅱでの取り組み】



#### 略歴

法政大学大学院経営学研究科  
キャリアデザイン学専攻(修士)  
修了後、法政大学大学院政策創  
造研究科博士後期課程に進学。

2011年3月、同博士課程中退。

e-mail:

[shohji.shirai.36@hosei.ac.jp](mailto:shohji.shirai.36@hosei.ac.jp)

研究室は新見附校舎2F

後期の授業では、教員による講義以外に、「必要なキャリア教育を自ら作ろう・実践しよう」をテーマに、学生たちはグループごとに企画の立案と運営を行っています。私からの指示は、

- ①本学が重視する3つの力の育成に(部分的にも)役立つ内容であること
- ②安易な就職活動支援やHow to的なものは除くこと
- ③実施結果については、企画コンセプトに照らし合わせながら報告書を提出すること、です。

何度かの企画会議を経て、学生たちが企画した授業プログラムは、どうしても就職(活動)を意識したものであることは否めません。あるいは、学生たちが「必要だ」と企画したものの中には、「授業でやったでしょ」というものもあります。それでも、学生たちなりに必要性を感じ、あるいは他の学生のことを考えて作られたプログラムからは、今どきの大学2・3年生が、どういうことに悩み、不安を感じているのかが端的に表れているようにも思えます。その1つに、ブラック企業問題があります。

言葉としては、すっかり世の中に定着したようにも思えますが、学生からすれば、ニュースやメディアで聞く程度、なかなか実感を持って考える機会はありません。そこで、教員の出番です(といっても、学生の重い腰をひっぱただけですが)。ブラック企業班は、さっそくブラック企業と噂される某外チェーン店に取材を依頼、さらにはこうした企業に勤めた経験のある方や自主退職に追い込まれた社会人に対して、聞き込み調査を実施しています。今後は、こうした問題を専門に扱っているNPO団体にも取材に行く予定です。

最終的に、どのような授業が行われるのか、現時点では教員である私にもまだまだ想像が付きません。それでも、彼らが自分たちなりに見つけた問題関心に対して、不器用ながらも調査・研究している姿は、とても頼もしくみえてきます。なぜなら、こういう機会に接する大人は、彼らが普段大学内で接している大人たちと違い、あまり教育的ではないからです(もちろん、多少の配慮はされていると思いますが)。そのため、学生からは「怖かった」、「露骨に嫌な顔された」などといった言葉も漏れ伝わってきます。教員として、今は、そうした学生のフォローをしつつ、発表を心待ちにしているところです。



略歴 84年名古屋大学大学院卒。  
京都大学博士(経済学)。84~89年  
京都大学経済研究所助手、90~97  
年滋賀大学経済学部助教授・教授。  
97年~03年法政大学経営学部教  
授、04年~IM研究科教授。

## 学生が勝手に作り上げた管理職のイメージを打破する

教授 藤村 博之 (ふじむら ひろゆき プロジェクトリーダー)

一昨年から制作しているDVD教材を学生に観せると、「こんなに優しい管理職がいるはずがない」という感想を抱く者が必ずいる。彼らが勝手に作り上げている管理職のイメージとDVD教材の中に出てくる管理職が違うので、「このDVDは現実を反映していない」と考えてしまうようである。

学生たちが持っている管理職のイメージは、2つの源泉から形成されている。一つはテレビドラマである。部下を怒鳴りつける管理職を見て、「これが管理職の姿なんだ」と考える。もう一つの源泉は、アルバイト経験である。居酒屋で働いていると、エアマネージャーがまわってきて、店長を厳しく指導している。それを見て「管理職って、怖い人なんだ」と思う。

どちらも間違いではないが、管理職のごく一面しか伝えていない。現実には多様である。管理職は、基本的に優しいし、丁寧に指導してくれる。学生が勝手に作り上げた管理職のイメージを打破することも、DVD教材の役割である。

## 「頑張る」気概を！！

特任教員 有田 五郎 (ありた ごろう)

ある所で強く共感を覚えて書き写してきた文章を紹介させていただきます。「もしこの世に神様がいたら、私の願いを叶えてくださいとは言いません。一生懸命に頑張りますから、どうぞ私の願いを理解してほしいのです。」この文章から何を感じますか？遠慮・謙虚・嘆願…

今の私はこの頑張る気概を学生達に求めたいと読み取りました。親や先生の顔色を伺う、仲間同士でもなかなか本音を語れないなどなど、現代の学生達の委縮している姿に常々もったいないと思っています。信じられる自分を作り上げて自分の意見・考えを主張する態度と相手を理解しようとする姿勢、このバランスを追い求めて欲しいと願う次第です。



略歴 70年慶応義塾大学経済学部卒。  
70~06年伊藤忠商事(株)勤務、06~11  
年帝京大学と法政大学職員。  
11年~法政大学教員

## アセスメントツール(HAT)で現れた内定者の実力とは

特任教員 鈴木 美伸 (すずき よしのぶ)

私たちの開発したアセスメントツール(HAT)の被験者数も徐々に増えてきましたが、統計的に分析するにはもう少し実績を重ねる必要があります。そんな中、とある企業の内定者に対して実施する機会を戴き、成績を比較することができました。

その結果、「文書作成力」では一般学生(1~3年生)との大きな違いは出ませんでした。しかし、「情報収集・分析・発信力」と「状況判断・行動力」では顕著な差が現れました。これらはビジネスゲームで測定される指標です。内定者が高得点を得た原因が、就職活動を経験したからなのか、単に高学年だからなのか、という点は更に検証しなければなりません。しかし、HATによって内定者の実力が測定できたということは、アセスメントツールとしてのアセスメントをひとつクリアできたと言えると思います。



略歴:日米ハイテク企業での営業・人事  
を経て人事コンサルタントとして独立。  
キャリアカウンセラー資格取得後は多くの  
大学でキャリア論の講師を務める。

### ◆ ビジネスコンテスト開催

産学連携 3D 教育プロジェクトでは、かねてより新しい形のインターンシップを模索しており、教員がそれぞれ企画を出し合い、企業との交渉を続け、調整を重ねてまいりました。このたび、旅行用品・文具等の製造企業の協力を得ることができ、形になろうとしています。

今回のビジネスコンテストはその前哨戦であり、優秀な提案をしたチームには実際の販売実現に向けての活動(新しい形のインターンシップ)が待っています。旅行用品・ペンケース・ブックカバー等の商品企画・開発を行います。連携7大学からメンバーを募集し、チームごとに企画提案を行います。斬新！な企画が生まれることを期待し、事務局からHPなどで活動の様子をご報告していきます。

◆ 編集後記 : 図書館と言えば「知の殿堂」。静寂な環境の中で読書にいそむというイメージですが、最近ちょっと変わってきているようです。大学での勉強もグループワークを中心としたアクティブラーニングが増えてきました。それに伴いグループでワイワイしながら学習できるスペース「ラーニングcommons」を設置する大学が増えてきています。もちろん本学にもあります(知ってましたか?)。仕事もチームでやるのが多く、グループ学習の経験はまさに社会人になってからも生きるチカラになるでしょう。

先日訪問した同志社大学のラーニングcommonsでは、様々な学習スペースを使って、学生たちが生き生きと勉強(多分?)している姿が印象的でした。まさに「知のショールーム」「知のファミレス」のような感じです。立教大学の新しい図書館には豪華なソファを置いたリラクゼーションスペースがあるようです。アニメの世界では「戦争」が起こるほどホットな話題となっている「図書館」。「図書館でおしゃべり?あり得ない」とか「ソファなんかあったら寝るでしょ」なんて言っている方は一度訪れてみてはいかがでしょうか。なお、現在学習ステーションでは「大学周辺図書館ガイド」作成プロジェクトが活動中です。こちらのほうもご期待ください。◀ 事務局:平山 ▶

「就業力を育てる3ステップシステム」プロジェクト (事務局:学務部教育支援課)

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1

TEL: 03-3264-9520 WEB: http://3dep.hosei.ac.jp/